

報道関係各位

2006年9月29日
株式会社プラメド

**生活習慣病関連診療科の医師の6割が、患者からトクホに関する質問・相談を受けた経験があり、質問・相談内容の9割が「使用してもかまわないかどうか」である。回答医師の4人中3人は患者がトクホを利用することに肯定的で、「クスリに依存するのではなく、食事で管理するという患者の意識付けになる」ことを、その理由としている。
(プラメドが実施した「特定保健用食品(トクホ)に関する医師調査」結果より)**

医師向け調査会社の株式会社プラメドは、生活習慣病の患者を診療する医師を対象に「特定保健用食品(トクホ)に関する医師調査」を実施しました。調査結果がまとまりましたので公表いたします。

■調査概要

1. 調査タイトル 特定保健用食品(トクホ)に関する医師調査
2. 調査目的 生活習慣病の患者を診療する医師の、トクホの制度や商品に関する認知状況を捉えるとともに、患者がトクホを摂取することに対する意識や態度を把握する
3. 調査対象 生活習慣病関連診療科の医師
4. 調査方法 インターネット調査
5. 調査期間 2006年8月24日(木)～9月8日(金)
6. 有効回答数 280人

■調査結果の概略

- 患者から、トクホに関する質問・相談を受けたことのある医師は、回答者全体の6割(59.3%)。糖尿病科の医師では、8割(79.4%)にのぼる
- 患者からの質問・相談内容の9割(89.8%)は「使用してもかまわないかどうか」の相談。糖尿病科だけでみると「使用して効果があるのか」の質問も多い(74.1%)
- 患者がトクホを利用することに対して「良い」の回答は9.6%。「どちらかといえば良い」は66.1%。回答医師の4人に3人が“肯定派”であった。
- 同様に、「悪い」の回答は2.1%。「どちらかといえば悪い」は22.1%。回答医師の4人に1人は“否定派”であった。
- 患者がトクホを利用することを、医師が“肯定”する理由の1位は、「クスリに依

存するのではなく、食事で管理するという患者さんの意識付けになるから」が6割（61.3%）。次いで「病気と食品（食事）との関係について、患者さんの理解が深まるから」（50.9%）

- 一方、“否定”する理由は、「患者さんがトクホで病気が直るような誤解をしやす
いから」（77.9%）と、「患者さんがトクホさえ摂取していれば、病気が重くなら
ないと勘違いしやすいから」（77.9%）が最も多い
- トクホについて医師が知りたい情報の1位は、「作用機序（作用メカニズム）」で
66.4%。次いで「臨床試験の解析結果」（51.1%）、「処方薬剤併用での使用禁忌」
（50.0%）の順となっている

※ 調査結果の詳細は、弊社 HP をご覧ください。

<http://www.plamed.co.jp/activity/research/r060011/>

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社プラメド広報担当 守屋

Tel.03-3253-2530 Fax. 03-3253-2530

e-mail : tokuho@plamed.com

URL : <http://www.plamed.co.jp/>

【株式会社プラメド】 <http://www.plamed.co.jp/>

株式会社プラメド（本社：京都府京都市、代表取締役 平憲二）は、2005年4月に医師が起業したベンチャー企業です。医師に対して高いセキュリティと操作性を有する Web コミュニケーションツールを提供するとともに、調査に協力いただける医師をネットワーク化し、医師を対象とするインターネット調査を実施しています。「医療現場からの出発」を掛け声に、より良い医療環境づくりのためのお手伝いをしていきます。

以上